

RØDE[®]
MICROPHONES



M3



USER'S MANUAL
-取扱説明書-



株式会社 サウンドハウス
〒286-0825 千葉県成田市新泉14-3
TEL:0476(89)1111 FAX:0476(89)2222
<http://www.soundhouse.co.jp> shop@soundhouse.co.jp

はじめに

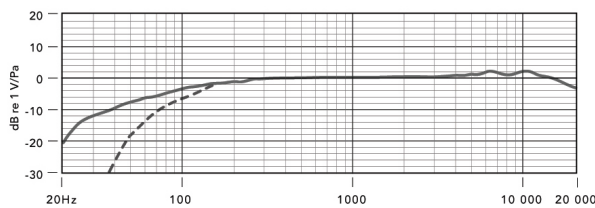
この度は RODE M3 をお買い上げいただき、誠に有難うございます。M3 はスタジオや、ライブ、フィールド録音に最適なマイクロフォンです。スイッチ切り替え式の PAD スイッチ、ハイパスフィルターにより音源を幅広く調整する事が可能です。現代的ですっきりとしたブラックのデザインで、電池駆動も可能な為、場所を選ばずにご使用頂けます。

製品の性能を最大限に発揮し、末永くお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読み下さい。尚、お読みになった後は保証書と一緒に大切に保存して下さい。

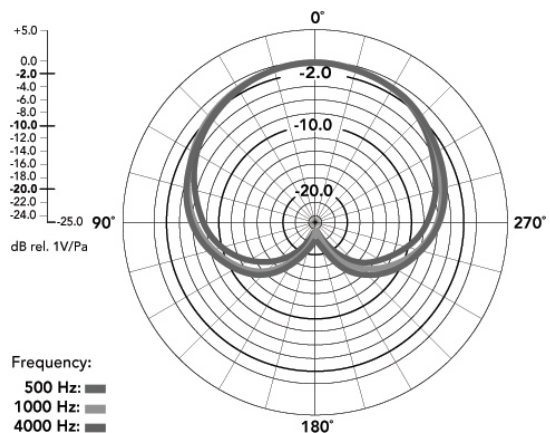
仕様

タイプ	コンデンサー
指向性	単一指向性
周波数特性	40Hz -20,000Hz 選択式ハイパスフィルター(HPF) @80Hz 12dB/Octave (グラフ参照)
出力インピーダンス	200 Ω
感度	-40dB ±3dB re 1V/Pa@ 1kHz (6.3mV/Pa@ 94dB SPL)
等価ノイズ	21dBA SPL (A weighted IEC651)
最大出力	+9.22dBu (@1%THD / 1kΩ)
ダイナミックレンジ	121dB (per IEC651)
最大 SPL	142dB (@ 1kHz, 1% THD 負荷 1kΩ時)
S/N 比	73dB SPL (@ 1kHz, rel 1Pa)
電源	006P 9V バッテリーまたは 24/48V ファンタム電源
必要な電流値	バッテリー駆動時 1.6Ma 48V ファンタム電源駆動時 6.5mA
電池寿命	200 時間
出力	3 ピン XLR バランスアウト、Pin2 (+)、Pin3 (-)、Pin1 (ground)
本体重量	390g (電池なし)
梱包重量	1,285g
寸法	全長 225mm 直径 φ33mm

周波数特性



極性パターン



特徴

- ヘビーデューティなメタルボディ
- 内部ショックマウント構造マイクカプセル
- 高い RF リジエクション値
- スイッチ式ハイパスフィルター@80Hz -12dB/Oct
- -10、-20dB 切り替え式パッドスイッチ
- 低ハンドリングノイズを実現
- 熱処理された高強度メッシュヘッド
- バッテリーステータス・インジケータ
- 9Vバッテリーおよび 24-48Vファンタム電源による駆動

同梱内容



M3 マイクロフォン



マイクホルダー



ウインドスクリーン



キャリングポーチ

M3 への電源供給

RODE M3 はレコーディングやステージ、および屋外でのフィールドワークなどに最適です。低く抑えられたノイズ、幅広い周波数特性で、ミュージシャン、エンジニアの要望を満たすサウンドクオリティを誇ります。M3 への電源供給はファンタム電源(仕様の項目を参照)もしくは 9V電池を使って行います。

ファンタム電源(P48 & P24)

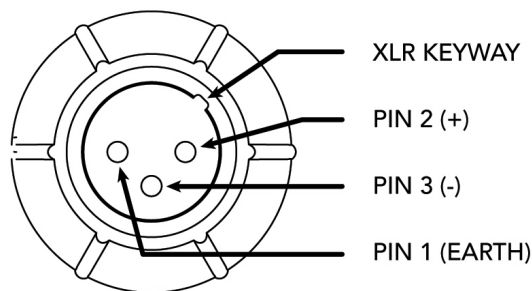
殆どのプロ仕様ミキサーは 48Vファンタム電源を供給する事が出来ます。もし使用するミキサーからファンタム電源を供給できない場合は外付けのファンタム電源ユニットを使用することも可能です。

注意:ファンタム電源使用中の場合、電池が入っていてもファンタム電源が優先されます。

XLR ケーブルの接続

1.XLRケーブルを M3 に接続する前に、ケーブルの配線が M3 の出力端子とあっているか確認して下さい。M3 はバランスのマイクレベル信号を出力します。以下のピンアサインを参照して下さい。

Pin1 (アース)、Pin2 (+)、Pin3 (-)



接続する機器の入力端子によって、XLR-XLR、XLR-フォン、XLR-ミニなどのケーブルを使い分けて下さい。

2.信号の減衰、歪みを避ける為、出来る限り短い、高品質な XLR ケーブルをご使用下さい。

3.XLR ケーブルを接続する際は、片手で M3 を持ち、もう片方の手で 3 ピン XLR のケーブルを持ちます。XLR メスケーブルのロットと M3 ボディ内の溝を合わせます。カチッと音が出るまで差し込み、リリースラッチを押さないと外れないことを確認して下さい。



9V 電池の使用

ファンタム電源の供給機能がない機器と接続する際は、006P 9V 電池を使用します。+、-の向きに気をつけて取り付けて下さい。電池は品質の高いアルカリ電池をご使用ください。高品質のアルカリ電池を使用した場合、300時間を超えて使用できるという試験結果が出ており、これは一週間に6時間使用した場合、およそ1年間使えることとなります。

電池の入れ方

1. ボディー下部を回して緩め、ボディーを外すと内部に電池ボックスがあります。



2. カバーを開きます。

3. 電池の下側から、電池ボックスの中に入れます。その際、電池ボックス内に記載されているプラス、マイナスのマークを確認の上、電池を入れて下さい。



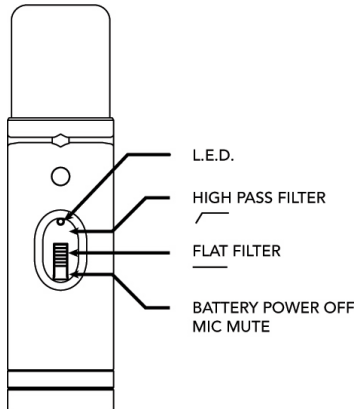
4. 電池ボックスの上部と平行になるまで、電池を奥まで入れ、カバーを閉じます。

5. ボディー下部を回して元に戻し、しっかりと締めてください。

M3 の操作

レコーディングやライブの際は M3 をミキサーに接続します。電池が必要になるのは使用するミキサーやプリアンプから 24V、48V ファンタム電源が供給できない場合だけです。その場合は 9V 電池によってポータブル DAT やその他録音機器に接続し、フィールドレコーディング等で使用する事が出来ます。

M3 には PAD スイッチとフィルタースイッチが搭載されています。



On/Off フィルタースイッチ

フィルタースイッチは多機能な 3 ポジションスイッチです。このスイッチを使って、電池からのメイン電源、マイクのミュート、フィルターの選択を行う事が出来ます。

2 ポジション切り替え式のハイパスフィルターはフラットな周波数特性から 80Hz 辺りをカットします。足踏みのノイズなど低域のノイズが気になる際にスイッチを入れます。このスイッチを使うことによって全体のトーンキャラクターが影響を受ける事があります。スイッチを使った時の音と使わないときの音を良く聞き比べて判断して下さい。

LED インジケーター

電池の状態を表示する LED です。電源投入後 LED が約 1 秒点滅している場合は電池の容量が十分に残っている事を表します。LED が点灯し続けるようになると、電池の残量が少なくなっていますので、できるだけ早く電池の交換を行って下さい。電池の残量が少ない状態で使用した場合、マイクの感度が著しく落ちる事があります。

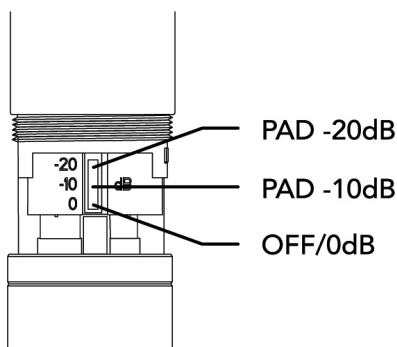
注意: M3 を電池で駆動させる際はこまめに電源を切ることにより電池の寿命を長くする事が出来ます。また、液漏れによるダメージを避ける為、長期間使用しない場合は電池を取り外して下さい。



PAD スイッチ

PAD スイッチは -10dB もしくは -20dB、感度を減衰させるアッテネーターとして機能します。

ボディ下部を回して外すと内部に PAD スイッチがあります。



小さなドライバーやペンなどを使ってスイッチの位置を変えて下さい。減衰量を 0dB、-10dB、-20dB の中から選択します。0dB に設定して音質をチェックしてから、調整を行って下さい。

誤操作を避ける為、RODE M3 には独自の埋め込み式スライドスイッチが採用されています。

M3 の取り付け

M3 には RM3 マイクホルダーが付属します。RM3 をマイクスタンドに取り付けることにより、M3 をしっかりと固定します。

スタンドマウントの取り付け方

コネクタ破損を防ぐため、M3 を RM3 に取り付ける際はケーブルやコネクタを外してから行ってください。斜めに押し込むようにして M3 を RM3 に取り付けます。



M3 をしっかりと固定するように、ホルダー部は固くなっています。フィルタースイッチは操作しやすいよう上側に向けて下さい

ご使用に当たっての注意

1. ファンタム電源が M3 に供給された際、またバッテリー電源を ON にした後にマイクの状態が安定するまでに数秒かかります。マイクの状態が安定するまで接続するミキサー、レコーディングのアッテネーター、ゲインは OFF もしくは 0dB に設定しておく事をお勧めします。
2. ノイズや歪みを抑える為、ミキサーの入力ゲインは音源(ボーカル、楽器)のレベルが一番高くなった時に、ピークインジケーターが点滅するレベルに調節して下さい。ピークインジケーターのない機器に接続している際は、音をよく聞き、歪んできたら徐々にゲインを下げたてクリーンなサウンドになるように調整して下さい。
3. サウンドメイキングは主観によって左右されますが、試行錯誤することでよりよい音質を得られることもあります。マイクの位置は音質に大きく影響します。録音環境を見極めるのに最も良い方法は録音するサウンドを良く聞くことです。最初は EQ を OFF にしたフラットなセッティングをお勧めします。EQ は使用する環境の音響特性を変えることは出来ません。音質を好みによって修正したい時は、EQ やエフェクターを使って下さい。
4. M3 はライブステージで使用すれば、ダイナミックマイクでは得る事の出来ないスタジオ・クオリティーのサウンドを得る事が出来ます。ボーカル用ダイナミックマイクの特徴で、幅広い周波数特性、と言われているものは、音源とマイクが近い時(近接効果エリア内)にだけ実証されるものです。M3 をボーカルマイクとしてステージで使用する際、この低域成分を抑えたい時があるかもしれません。その際は外部機器のハイパスフィルターやベースロールオフのスイッチで調整して下さい。マイクを近接効果の及ばない位置まで音源から離す、フィルタースイッチで調節する等の方法も有効です。これらのベーシックなマイクのコントロール、テクニックを身に着けることによってより良いサウンドを得る事が出来ます。

メンテナンス

1. 全てのコンデンサーマイクと同様、M3 は湿気のない場所で保管して下さい。ボーカルマイクとして使用した場合、カプセルは常に湿気を帯びる可能性があります。ボーカル用として使用する場合はウインドスクリーンを併用することをお勧めします。ウインドスクリーンはバ行やパ行などの発声時に出る破裂音を抑える役割も果たします。
2. 内部の電気系統に破損が生じる事があるため、落としたり、強くぶついたりしないように気をつけて下さい。ご使用後は柔らかい布で汚れをふき取り、アクセサリと一緒にケースに入れて保管して下さい。
3. M3 は同梱された湿気吸収用のシリカゲルと一緒に保管して下さい。このシリカゲルがピンクになった場合それ以上湿気を吸収できないことを表します。100-150°Cに暖めたオープンで、元の色に戻るまで加熱する事により繰り返しご使用頂けます。

注意： 修理が必要な時は、販売店、もしくは輸入代理店までお問い合わせ下さい。

保証書

ご使用中に万一故障した場合、本保証書に記載された保証規定により無償修理申し上げます。

お買い上げ日より10年間有効

■保証規定

保証期間内（ご購入より10年間）において、取扱説明書・本体ラベルなどの注意書に基づき正常な使用方法で万一発生した故障については、無料で修理致します。保証期間内かどうかは、サウンドハウスからのご購入履歴により確認を行います。

但し、保証期間内でも、下記のいずれかに該当する場合は、本保証規定の対象外として、有償の修理と致します。

1. お取り扱い方法が不適当（例：過大入力によるウーハー焼けなどの故障等）なために生じた故障の場合
2. サウンドハウス及びサウンドハウス指定のメーカーや代理店が提供するサービス店以外で修理された場合
3. 製品に対して何らかの改造が加えられた場合
4. 天災（火災、塩害、ガス害、地震、落雷、及び風水害等）による故障及び損傷の場合
5. 製品に何らかの理由で異物が付着、もしくは流入したことによる故障及び損傷とみなされた場合
6. 落下など、外部から衝撃を受けたことにより故障及び損傷がおきたとみなされた場合
7. 異常電圧や指定外仕様の電源を使用したことによる故障及び損傷とみなされた場合（例：発電機などの使用による異常電圧変動）
8. 消耗部品（電池、電球、ヒューズ、真空管、ベルト各種パーツ等）の交換が必要な場合
9. 通常のメンテナンスが必要とみなされた場合（例：スモークマシン等の目詰まり、内部清掃、ケーブル交換等）
10. お客様自身で行った調整や修理作業が原因で生じた破損事故や故障
11. その他、メーカーの判断により保証外とみなされた場合

●運送費用

通常、修理品の持込等に要する費用は全てお客様のご負担となります。但し、事前に確認のとれた初期不良ならびに保証範囲内での修理の場合は、佐川急便に限り着払いを受け付けます（下記RA番号が必要です）。沖縄などの離島の場合は、着払いでの受付は行っておりません。送料はお客様のご負担にて、どこの運送会社からでも結構ですので発送願います。

●RA番号（返品承認番号）

初期不良または保証内の修理における着払いでの運送については、サポート担当より通知されるRA番号が必要です。ご返送される場合は、必ずRA番号を送り状シールに明記してください。RA番号が無いものについては、佐川急便以外の運送会社での着払いは一切お受けできませんのでご了承ください（お客様のご負担の場合はどの便でも結構です）。

●注意事項

サウンドハウス保証は日本国内のみにおいて有効です。また、いかなる場合においても商品の仕様、及び故障から生じる損害（周辺機器の損害、事業利益の損失、事業の中断、事業情報の損失、又はその他の金銭的損害）に関してサウンドハウスは一切の責任を負いません。

RØDE[®]
MICROPHONES

